

石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

# 事業報告書

第22巻

令和6年度

石川県立看護大学附属地域ケア総合センター



## 巻頭言

石川県立看護大学は、令和6年能登半島地震や同年9月の能登半島豪雨を教訓に、防災や災害対応に特化した全国初の寄附講座「災害実践看護学」を開設しました。災害への備えから、発生時の緊急対応、そして復興・復旧の長期支援までを見据え、さまざまな状況で力を発揮できる看護師の育成を目指しています。限られた資源の中でも最善の看護を提供できるよう、学生たちは幅広い知識と実践的な技術を学び、地域に寄り添う“災害に強い看護”を身につけています。

地域の活動としましては、昨年度に能登開催でのイベントで看護学生が中心となって健康チェックを行う「能登の健康応援隊」を企画しておりましたが、残念ながら能登半島豪雨の影響でイベント自体が中止となりました。また、高齢化が進む能登地域で新たな繋がりを生む「災害につよい街づくり事業」では、サロン活動を通して、住民の方々の心身の健康を支える活動を行いました。「令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援」では、現地の状況を見ながら教職員・学生が活動に参加し、避難所や仮設住宅での健康観察やレクリエーション活動、健康相談を行いました。こうした経験は、学生にとって貴重な学びの場となり、災害時にも地域に寄り添える看護の実践力を育む機会となっています。

さらに、今日では、医療や看護の現場ではデジタル技術の活用（DX：デジタルトランスフォーメーション）が欠かせないものとなっています。本学でも、すべての教科書を電子化し、タブレット1台でいつでもどこでも学習に取り組める環境を整えています。これにより、学びの幅が広がり学習の効率化や理解の深化といった効果が期待されています。また、VR（仮想現実）やシミュレーション技術を取り入れた看護教育では、学生がゴーグルを通して本番さながらの体験学習を行うことが出来ます。実際の現場に近い環境で、難しい手技を何度も練習できるため、安心して確実な技術を身につけることができます。DXの導入によって、学び方そのものがより実践的で、楽しく、効果的なものへと変化しています。これからは、こうした取組をさらに広げ、地域と連携しながら、保健・医療・福祉の発展や充実、フレイル予防の推進などへと繋げていけると考えております。

このように、私たちは、地域に根ざした取り組みを継続し、看護の専門性を活かして、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりに貢献してまいります。

最後に、センターの活動をご支援・ご協力くださった地域の皆さまに、心より感謝申し上げます。そして、日々それぞれの立場で努力を重ね、地域との連携に真摯に取り組んでくださっている教職員の皆さまにも、深い感謝の意を表します。

石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
学長 真田 弘美

## ご挨拶

日頃より、石川県立看護大学附属地域ケア総合センターの活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

当センターは2000年の開学と同時に設立され、地域住民や保健・医療・福祉の専門職と連携し、県民の健康と福祉の向上を目指して活動しております。この目的を達成するため、「人材育成」「地域連携・貢献」「国際貢献」という3本柱を基に、様々な事業を展開してまいりました。

「人材育成事業」では、今年度より本学の看護キャリア支援センター事業へ移管され、看護職の成長を支える体制をさらに強化しています。一方、「地域連携・貢献事業」では、本年度中に11の事業を実施し、多くの方々にご参加いただきました。特に新規事業として始まったIPNU（いふな）地域相談室「浮腫ケア看護相談」では、延べ65名もの方に参加いただく成果が得られました。

また、災害支援では、「能登のいきがづくり応援事業」「能登半島地震被災地における健康支援」などを通じて、学生と教員が連携しながら、地域の復興に貢献しました。

そして、かほく市のいきいきステーションと連携した「いきいき世代とつくる健康教室」では、学生のボランティア参加も促進し、地域住民との交流を深めています。

さらに、FMかほくでのミニ健康講座の発信を通じ、地域の健康意識の向上にも寄与しております。

地域創生事業としては、「能登・祭りの環」関係人口創出事業への参加を通じ、地域文化の継承や交流を図っています。しかし、今年度は令和6年能登半島地震と同年9月の能登半島豪雨の影響により、事業はやむを得ず中止となりました。それでも復興支援活動を通じて地域住民との絆を強め、未来に向けた一歩を進めております。

また、大学コンソーシアム石川が主催する「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」では、県内初の修了者を輩出し、さらなる地域貢献の道を開く成果を達成しました。さらに、大学コンソーシアム石川の地域課題研究ゼミナール支援事業の復興課題枠で助成金を受け、「被災高齢者等の健康管理」および「知恵と科学に基づいた避難所施設の安全性・利便性向上の検討」をテーマに活動を行いました。これらの取り組みは高い評価を受け、地域の期待に応える成果を上げることができました。

これからも、地域の皆様と力を合わせて、地域の課題解決とさらなる発展に貢献していく所存です。どうぞ引き続き、石川県立看護大学附属地域ケア総合センターへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

石川県公立大学法人 石川県立看護大学 附属地域ケア総合センター  
センター長 塚田 久恵

# 目 次

(ページ)

## 1 地域連携・貢献事業

### 1-1 相談サービス事業

1-1-1 「IPNU（いふな）地域相談室」浮腫ケア看護相談・・・・・・・・・・1

### 1-2 地域連携・貢献事業

1-2-1 能登のいきがづくり応援事業・・・・・・・・・・4

1-2-2 パーキンソン病いきいきリハビリ教室・・・・・・・・・・6

1-2-3 いきいき世代とつくる健康教室（地域公開講座）・・・・・・・・・・9

1-2-4 こころのシネマ学園台・・・・・・・・・・11

1-2-5 宝達志水町における祭礼行事のアーカイブ作成・・・・・・・・・・13

1-2-6 避難所指定施設における健康保持のための温度変化の計測と啓発活動・・・・・・・・15

1-2-7 災害につよい街づくり事業・・・・・・・・・・17

1-2-8 令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援・・19

## 2 その他

2-1 かほく市との包括的連携協定に関わる取り組み・・・・・・・・・・23



# 1 地域連携・貢献事業



# 1 地域連携・貢献事業

## 1-1 相談サービス事業

### 1-1-1 「IPNU（いぷな）地域相談室」 浮腫ケア看護相談

企画担当：臺 美佐子 / 成人看護学 教授

#### 1. 事業の目的

本事業は、がん治療後の合併症のひとつである“リンパ浮腫”に着目し、リンパ浮腫を有する方々やそのご家族、あるいはリンパ浮腫管理を行う医療従事者からの相談に応じること、および市民への啓発活動をとらして、石川県民の健康寿命延伸を目指す地域貢献事業である。

#### 2. 実施状況

令和6年度春、石川県立看護大学キャンパスに浮腫ケア看護相談室を開設した。看護師かつリンパドレナージセラピストの資格を有する本学教員2名（教授 臺 美佐子、准教授 松本 智里）での運営体制とし、リンパ浮腫相談の応需、浮腫の普及活動、医療施設との地域連携を図った。

開設から約1年間の運用において、石川県立看護大学附属地域ケア総合センターによる県内への精力的な広報活動の功を奏し、リンパ浮腫相談、浮腫の普及活動、医療施設との連携は、想定を超える市民からの反響を得て活発な運用に至った。広報活動、浮腫ケア相談室運用、浮腫の普及活動、医療施設との連携について報告する。

##### (1) 広報活動

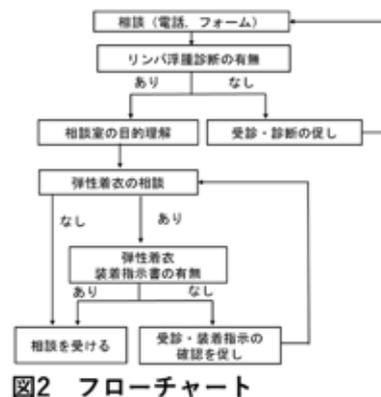
石川県立看護大学ホームページ掲載、地域ケア総合センターの事業案内掲載、かほく市へのチラシ配布、地域医療施設への案内、北國新聞掲載、かほくFMラジオでの案内、市民公開講座での案内を行った。そのうち、特に図1に示す北國新聞（提供/北國新聞社、2024年7月17日掲載）と大学ホームページを閲覧して相談をした者が多数を占めた。



図1 北國新聞への掲載

##### (2) 浮腫ケア相談室の運用

浮腫ケア相談室の運用体制構築のため、浮腫ケア相談に応じる教員、運用を支援する事務局と連携を図った。浮腫ケア相談フローチャートを作成し（図2）、浮腫ケア相談室の役割を明確化したうえで、地域医療施設との連携を図りながら、安全なケア指導・助言をできる体制を整備した。このフローチャートに沿って、電話やメールで相談を受けた際、リンパ浮腫診断有無を確認し、リンパ浮腫診断があれば相談内容に応じて浮腫ケア相談室の予約を行い、リンパ浮腫診断がなされていない場合には、医療施設への受診を促した。浮腫ケア相談室の予約は毎月1回3名とした。来室者が安心して相談できる環境を整えるため、浮腫ケア相談室の日には相談室の看板と掲示



を学内に示し（図3）、事務局員が待合室（講師控室）まで誘導した。予約時間に担当教員が相談室（保健室）へ案内し、1名あたり1時間、相談内容に応じアセスメントやケアの助言を行った。

相談件数は延べ76件、そのうち、電話50件、相談室17件（2回来室者4名）、電子フォーム8件、郵便1件であった。



図3 学内掲示や看板

### （3）浮腫の普及活動

市民対象の公開講座を2件、医療従事者対象のセミナーを2件開催した。

### （4）医療施設との連携

能登総合病院、公立松任石川中央病院、津幡訪問看護ステーション、石川県済生会金沢病院リンパ浮腫外来、石川県がん安心生活サポートハウスつどい場 はなうめと情報交換や連携を図った。

## 3. 実施内容

### （1）浮腫ケア相談室の来室者概要と実施内容

相談室来室者13名の概要を示す（表1）。

50代～90代と幅広い年齢層の方々に、居住地は金沢市、白山市、かほく市等であった。リンパ浮腫の原因は全員ががん治療によるもので、婦人科系がんが最も多く（69.2%）、浮腫部位は下肢が最多で76.9%、次いで上肢23.1%であった（図4）。リンパ浮腫保存療法段階では、導入が8名（61.5%）、継続が5名（38.5%）であり、圧迫療法の弾性着衣選定や着用時の助言、着用継続やリンパドレナージ方法の指導を実施した。

表1 浮腫ケア相談室来室者概要

		n=13	
		n	(%)
性別	女性	12	( 92.3)
年代	50代	2	( 15)
	60代	3	( 23)
	70代	5	( 38)
	80代	2	( 15)
	90代	1	( 7.7)
居住地	金沢市	6	( 46)
	白山市	2	( 15)
	かほく市	1	( 7.7)
	河北郡・羽咋群	2	( 15)
	七尾市・能美市	2	( 15)
リンパ浮腫の原因	婦人科系がん	9	( 69.2)
	乳がん	3	( 23.1)
	前立腺がん	1	( 7.7)
蜂窩織炎既往歴	あり	3	( 23.1)
浮腫部位	下肢	10	( 76.9)
	上肢	3	( 23.1)
リンパ浮腫保存療法段階	導入	8	( 61.5)
	継続	5	( 38.5)

### （2）浮腫ケアの普及活動

市民対象の公開講座として、かほく市いきいきシニア活動推進事業地域公開講座（七塚健康福祉センター，2024.8.2）および、宝達志水町女性の会地域公開講座（石川県立看護大学，2024.8.20）を、いずれも「今から始めるむくみケア『美しい肌を育てる！』」と題して実施した（図5）。合計36名が参加し、「むくみに気づけるようにしたい」「楽しくケアできることが分かった」などの感想があった。また、医療従事者対象のセミナーとして、がん看護学会地方分科会および石川県立看護大学リカレント教育事業を石川県立看護大学で実施し、いずれもリンパ浮腫アセスメントの新技术である超音波検査（エコー）を用いた評価方法について、最新の研究知見をもとに知識と技術の普及を図った（図6）。合計40名が参加し、「リンパ浮腫ケアに活かしていきたい」「実際にエコーで演習できて分かりやすかった」といった意見を得た。



図4 リンパ浮腫の症例



図5 市民公開講座の様子



図6 医療従事者対象のセミナーの様子

### （3）医療施設との地域連携

能登総合病院、公立松任石川中央病院、津幡訪問看護ステーション、石川県済生会金沢病院リンパ浮腫外来、石川県がん安心生活サポートハウスつどい場 はなうめと連携し、相談者の受診窓口の調

整、弾性着衣装着指示書作成、圧迫療法のフィッティングや継続への助言、リンパ漏といった重症浮腫の管理方法について、その都度連絡調整および協働し、相談者のそれぞれの課題解決を図った。

#### **4. 評価と今後の課題**

浮腫ケア相談室の開設・運用において、当初の目標を達成し、さらに想定を上回る市民の反響を得ることができた。また、フローチャート作成により、安全な運用と、地域連携を図りながら患者らの窓口になったことは、浮腫ケア相談室の役割を發揮できたものと評価できる。これは、石川県立看護大学附属地域ケア総合センターおよび事務局との共同体制で成しえたことであり、関係者に深く感謝申し上げたい。さらに、石川県内の医療施設との連携では、浮腫ケア相談室の意義へのご理解とご協力の賜物と、重ねて御礼を申し上げる。一方、課題として、相談者数の推移は広報活動による影響が多大であることから、さらに多くの市民に広報できる方法の検討が必要である。また、医療施設との連携では今後共同でパンフレットを作成するなど、共通の認識と教育媒体を用いてリンパ浮腫・ご家族の方々のサポートを行っていくことを計画している。令和7年度は、運用実績を踏まえ、より市民のニーズに合致した浮腫ケア相談室運用を図りたい。

## 1-2 地域連携・貢献事業

### 1-2-1 能登のいきがづくり応援事業

企画担当：市丸 徹 / 健康科学 准教授

#### 1. 事業の目的

少子高齢化の進む中で令和 6 年能登半島地震により甚大な被害にあった能登地域の、復興に向けての取り組みを継続的に応援する。学生とともに能登町の被災地域を訪問し、住民とのふれあいおよび傾聴活動を通して気持ちによりそい、いきがいの増進に寄与することを目指す。また学生には、地域生活への理解を深め、公民館の果たす役割を学び、考える機会としてもらう。

#### 2. 実施状況

夏には白丸公民館と共同で食事会・茶話会を企画し、令和 6 年 9 月 18 日に、学部 1 年生（フィールド実習 6 班および有志希望者）と 4 年生の計 6 名の学生とともに、白丸地区を訪問した。白丸地区仮設住宅にお住いの男女約 10 名を招待し、楽しく過ごしていただいた。企画終了後、白丸公民館報、石川県立看護大学 HP 上にて活動報告を行った。

令和 7 年 3 月 2 日には白丸公民館まつりが開催され、フィールド実習 6 班の学部 1 年生 6 名と、募集に応募のあった 1 年生 2 名、3 年生 1 名の学生 9 人に教員 1 名を加え、計 10 名で訪問した。公民館まつりの様子は北國新聞にも掲載され、大学 HP でも報告した。

#### 3. 実施内容

9 月の食事会・茶話会では、午前中に現地に到着し、学生が地域住民の女性陣とともにカレーを調理した。昼食時には談話しながら一緒に食事をした。また公民館に地域サークル活動で来ていた住民数名にも食事を振舞った。昼食後は学生と仮設住宅の方を組んで 3 チームに分け、対抗で脳トレなどのゲームを行い、親睦を深めつつ楽しんでいただいた。学生にとっては被災の実態やその中でも力強く生きる大人の姿勢を学ぶ機会となり、被災された住民の方々には、学生とのふれあいから一時でも辛さを忘れ、元気を取り戻す機会を提供できたことと思われる。





3月には公民館まつりに参加し、フィールド実習や9月訪問時に地域住民との交流から学んだことを、学生が登壇して発表した。また白丸地区の方に協力いただいた卒業研究の成果報告も教員から発表した。イベントの締めとなる抽選会では学生が司会進行し、運営に協力して約100人の地域住民と交流した。参加学生や教員からは、「被災者の方々がおまつりを通して笑顔が溢れるあたたかい様子になっていたことにとっても感動しました。」「日頃からの住民同士のつながりが深いということは白丸地区の強みであると感じていましたが、震災を経てさらにその強みの大切さに気づくことが出来ました。」「私たちの発表の際には、皆さんが真剣に話を聞いてくださり、発表の中で思い出すこともあるなか領いてくださって感謝しています。」「白丸の方々の明るさや強さ、人々のつながりを感じることができました。微力でも何かお手伝いできればと思います。」などといった感想が寄せられた。



#### 4. 評価と今後の課題

直近の数年間、コロナ禍と震災により様々なイベントの中断が続いてきたが、数年ぶりに現地訪問を実現できたこと、そして参加した学生、住民の方々ともに大いに楽しんでいただき、目標であるいきがい増進や学生の学びに結び付いたことは高く評価している。

一方、企画の準備に手間取り白丸公民館に大きく助けていただいたこと、9月の参加者を仮設住民に限定せざるをえなかったことが課題として残った。より早い時期から公民館と連携し、より多くの地域の方々にも参加していただけるイベントを企画していきたい。

また、楽しめる企画作りには成功したが、ゆっくりと傾聴する機会は持てなかった。継続していきやすい、落ち着いた交流による支援の在り方を模索していくことも今後の課題と考える。

## 1-2-2 パーキンソン病いきいきリハビリ教室

企画担当：岩佐 和夫 / 健康科学 教授

### 1. 事業の目的

実施目的：パーキンソン病ではリハビリテーションが病状の進行予防に有用であり、同病の患者同士の情報交換も病状把握や治療の自己決定において重要である。令和6年度事業においては、災害時におけるパーキンソン病の療養を基本に、パーキンソン病患者に対し災害時に必要とされる服薬の継続やリハビリテーションを含む療養上の注意事項に関する講演も行い、合わせて疾患に関する情報交換の場を提供した。また、災害時の服薬に関する意識調査も行い（2025年2-3月に実施）、災害に強いパーキンソン病の療養生活を提案するとともに、患者及び家族に安心がもたらされるようにすることを目的とした。

### 2. 実施状況

令和6年度のパーキンソン病いきいきリハビリ教室は、パーキンソン病友の会の協賛、北國新聞社後援のもと、金沢医療センターKMCパーキンソン病体操教室研究会と共同開催をおこなった。

第6回目は石川県立図書館を会場とし金沢大学大学院脳神経内科教授 小野賢二郎先生、および国立病院機構仙台西病院院長 武田篤先生をお招きしパーキンソン病の最新の治療および研究、パーキンソン病の基礎知識や服薬、災害時の対応が必要となることについてご講演をいただいた。さらに、昨年度の本教室で好評を得ているリハビリの紹介とこれに基づいた運動指導を行いリハビリの重要性を理解してもらった。

第7回目はしいのき迎賓館を会場とし金沢大学臨床薬理学研究室 石田奈津子先生、および北陸大学理学療養学 大畑光司先生をお招きしパーキンソン病の治療薬、災害時の服薬管理の講演と歩行に関するご講演をいただいた。

さらに、第6回の講演会ではパーキンソン病では災害時の服用薬管理の大切さの話が強調されていたことから、第7回の講演会では災害時における服薬に関する意識調査を行った。

また、第6回および第7回ともに金沢医療センターで行っているKMCパーキンソン病体操研究会の運動を紹介した。石川県内のパーキンソン病療養者、ご家族、医療関係者との交流の機会もえることができ、パーキンソン病における多くのことに関し啓発ができた。

### 3. 実施内容

実施内容および成果：

#### (1) 「第6回パーキンソン病いきいきリハビリ教室（パーキンソン病体操教室）」

共催：金沢医療センターKMCパーキンソン病体操研究会：第21回パーキンソン病体操教室

協賛：石川県PD友の会、後援：北國新聞社

日時：令和6年9月7日（土）14:00 - 16:00

場所：石川県立図書館 2階研修室

講演：小野賢二郎先生（金沢大学大学院 脳神経内科学 教授）

「レビー小体病（パーキンソン病）のバイオマーカーと治療の可能性」

武田篤先生（国立病院機構 仙台西多賀病院 院長）

「パーキンソン病とはどんな病気か？治療の進歩と災害に備え日常生活で気をつけること」

リハビリ教室：KMCパーキンソン病体操研究会（国立病院機構 金沢医療センター）

運営スタッフ：医療金沢センター6名/看護大5名（教員4名、学生1名）

参加者：98名

#### 【当日の様子】

金沢大学の小野先生からは、最新の研究・診断・治療のお話や七尾市中島町での災害後の調査を行っているとお話があった。仙台西多賀病院の武田先生からは、パーキンソン病ではドーパミンが減少することで運動症状のみでなく気分にも影響するとお話があり、ドーパミンを補うことの大切さをわかりやすく説明されていた。また、ドーパミンを補うとともに運動を行うことでパーキンソン病の進行が予防できるとのお話があった。

災害への対応としては、予備の薬を持つこと、避難所では運動を行うこと、トイレを我慢しないことが大切であるとの話があった。

#### (2)「第7回パーキンソン病いきいきリハビリ教室（パーキンソン病体操教室）」

共催：金沢医療センターKMC パーキンソン病体操研究会：第22回パーキンソン病体操教室

協賛：石川県PD友の会、後援：北國新聞社

日時：令和7年3月20日（木、祝日）13:00 - 15:00

場所：しいのき迎賓館 3階セミナールームB

講演：大畑光司先生（北陸大学理学療法学科 教授）

／北陸大学健康未来社会実装センター（IoHセンター）センター長）

「パーキンソン病における歩行障害とその対策—練習方法とリハビリテーションロボットの紹介—」

石田奈津子先生（金沢大学臨床薬学研究室 助教）

「パーキンソン病と向き合うためのくすりの話」

リハビリ教室：KMC パーキンソン病体操研究会のスタッフによるリハビリ教室

運営スタッフ：金沢医療センター6名/看護大2名

参加者：52名

#### 【当日の様子】

北陸大学の畑先生からは歩行や立位でのバランスのメカニズムのお話があり、転倒につながる状態についてもわかりやすいお話があった。これらのメカニズムは通常無意識で行っているが、ロボットを使用したリハビリなどで改善が可能であるなど今後のパーキンソン病患者さんのQOL改善に向けて期待をもつことができた。また、会の終了後に実際にロボットを患者さんに装着するデモをおこなっていただき、患者さんの歩容が改善していくことを実感することができた。

金沢大学の石田先生からはパーキンソン病の薬の作用点と効果、服薬時の注意点などわかりやすいお話を聞くことができた。薬に関するQ&Aなどでも楽しみながら薬について学ぶことができた。最後に、ご自身が能登半島地震での避難所で服薬支援を行ったときの状況のお話をいただき、日ごろから備えるべき薬の管理やお薬手帳の重要性を伝えていただいた。

KMC 体操研究所の指導による音楽に合わせておこなうリハビリでは、120/分のテンポと体を大きく動かすことの大切さを実際に体を動かすことで実感ができ、毎日リハビリを続けるために必要なことなどに関する質問もでていた。

#### 4. 評価と今後の課題

パーキンソン病の療養においてリハビリテーションの大切さを理解してもらい、楽しく身体を動かす機会となった。今年度は石川県全体に参加を呼びかけたことから2回とも金沢市での開催となった。来年度以降においても、金沢医療センターと連携を行い、継続したパーキンソン病およびリハビリテーションの啓発活動を計画していくとともに、日ごろの心構えに関する意識向上を図る教室を開催していくものとする。リハビリの大切さがわかっても、継続して運動を行うことが難しく、運動の継続性が今後の課題となっている。

本教室で開催される交流会では、パーキンソン病患者および家族がお互いの状況や生活について

ての情報を交換する機会となっているだけでなく、普段の診療では聞けない悩みに関する相談もでき貴重な意見交換の場になっており、今後も交流会を継続する。

実施後のアンケートでは、今回のリハビリ教室の開催を良かったとするものが大半であった。体を動かす時間を増やしてほしいのご意見もあり、体操教室の時間配分については検討が必要である。また、体操教室の来年度の開催を期待するとの意見も多く、今後も金沢医療センターとの協力も含めて、継続的な開催と教室での講演内容などを検討していくことが必要であると考えられた。

## 1-2-3 いきいき世代とつくる健康教室（地域公開講座）

企画担当：大西 陽子 / 成人看護学 講師  
松本 勝 / 共同研究講座 教授

### 1. 事業の目的

かほく市いきいきステーション（七塚健康福祉センター集会室）にて地域公開講座を開催し、看護大学教員の知見を市民に還元する。いきいきステーションに定期的に訪問し、学生・教員と地域のシニア世代との交流活動を行い、学生においては対象理解や地域のニーズ把握を促進し、シニア世代には社会参加の機会となる。

### 2. 実施状況

いきいきステーションの協力のもと、本学教員による地域公開講座を6月から11月に全5回実施し、男性40名・女性130名の計170名が参加した。企画書をいきいきステーションに提出、開催概要を提示し、いきいきステーションからかほく市の広報誌に掲載、各回の参加者募集を依頼した。

6/13-6/14に開催した第1回の地域公開講座ではテーマを「まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金!!～筋肉を増やす食事のコツ～」とし、講話と測定会の2本立てとした。本学の学部1年生の必修科目「フィールド実習」の一環として、学生及び教員がいきいきステーションを訪問し、地域公開講座の運営補助やいきいきステーションの行事に参加し、かほく市のシニア世代との交流活動を行った。

### 3. 実施内容

地域公開講座（全5回）

＜第1回＞令和6年6月13日（木）13:30～15:00（講話） 担当者：長谷川陽子准教授

6月14日（金）9:00～12:00（測定会、本学1年生が参加）

テーマ：「まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金!!～筋肉を増やす食事のコツ～」

参加者：91名

＜第2回＞令和6年7月11日（木）13:30～15:00 担当者：幅大二郎講師

テーマ：「まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金!!～筋肉を増やす運動のコツ～」

参加者：33名

＜第3回＞令和6年8月2日（金）13:30～15:00 担当者：臺美佐子教授

テーマ：「今から始めるむくみケア「美しい肌」を育てる！」

参加者：14名

＜第4回＞令和6年9月25日（水）13:30～15:00 担当者：垣花渉教授

テーマ：「「スモールチェンジ」健康づくり」

参加者：21名

＜第5回＞令和6年11月19日（火）13:30～15:00 担当者：松田幸久准教授

テーマ：「温度・湿度からみる家の特徴を知ろう！」

参加者：11名

#### 4. 評価と今後の課題

4月より早々にスケジュール調整を行ったことで積雪前の参加しやすい時期に全日程を終えることができた。参加者数は例年より多かった。6/13-6/14の公開講座では特に参加人数が多く2日間の参加者は述べ91名であり昨年より増加した。体組成（筋肉量、脂肪量等）の測定会において昨年引き続き参加者が増加したことから、住民のニーズが高いことがわかる。次年度以降も継続していきたい。また、看護大学の学生にはこれまで高齢者との関わりを持ったことが少ない学生もおり、公開講座や測定会の運営をサポートしながら多くの高齢者との関わりを持てたことは大きな学びになっていた。参加した高齢者からも看護大学の学生と交流をもてたことに喜びの声が上がっていた。また、普段は女性の割合が高い地域公開講座ではあるが、「筋肉/筋力」に関するテーマを取り入れたことで昨年に引き続き男性の参加者が増加したと考えている。

学生の実習やその他の課外活動などと絡めて公開講座を開催できれば学生の学びや参加者の満足度にもつながると考えられるため、次年度も担当者を中心にして企画を考えていきたい。



## 1-2-4 こころのシネマ学園台

企画担当：美濃 由紀子 / 精神看護学 教授

### 1. 事業の目的

映像作品の鑑賞を通して、精神医療福祉や精神疾患への関心を高め、正しい理解の深化につながるような体験提供の一翼を担うこと。映像作品のテーマはこころの健康(メンタルヘルス看護)などである。上映会后、参加希望者とテーマについて自由に語ることでできる場を設け、交流の機会や学びの機会とする。また、大学と地域に暮らす人々や専門職間の連携の可能性を探る。

### 2. 実施状況

#### (1) 開催日時と参加人数

開催日時：令和6年10月5日(土)

上映会 13時～15時、シネマ de カフェ 15時～16時

参加人数：上映会：168名、シネマ de カフェ：66名

#### (2) 開催場所：上映会／石川県立看護大学講堂、シネマ de カフェ／中講義室

上映映画：カノン

#### (3) 講師等

コーディネーター：美濃 由紀子(石川県立看護大学 精神看護学 教授)

大江 真吾(石川県立看護大学 精神看護学 講師)

事務局：川俣 文乃(石川県立看護大学 精神看護学 助教)

高濱 圭子(石川県立看護大学 精神看護学 助教)

### 3. 実施内容

こころの病について正しい理解につなげることを目的とし、金沢が舞台のアルコール依存症を題材にした映画「カノン」の上映会を開催した。また上映会後には、何でも話せるくつろぎの場「シネマ de カフェ」も開催した。映画上映会前に「依存症とアルコール性認知症」に関するミニ講義と震災後のこころの悩みに関する相談や相談窓口に関する情報提供を行った。

公報活動としては、本学 HP を用いた広報を実施。また、県内の医療機関、市役所等の公的機関にチラシを配布した。かほく市(健康福祉課、情報推進課)協力のもと、公報かほくへの掲載、チラシをかほく市全戸に回覧した。

アンケート結果より、多くの参加者が、こころの病について考えるきっかけとなった、こころの病に対する理解が深まった、また参加したいと回答していた。

#### (1) 映画上映会について

「とても感動した、有意義な時間を過ごすことができた」

「映画を見ながらこころの病についての紹介だったので、すんなり入っていった」

「こころの病について考えさせられた、今後の人生の参考になった」

「アルコール依存症になる方は特別ではなく、それなりの理由があることがわかった」

「悩みを自分一人だけで抱えるのではなく、人に相談することの大切さを実感した」など

⇒映画鑑賞を通じて、こころの病について考え、理解を深めているようであった。

## (2) シネマ de カフェについて

「すぐ帰るより、思ったことを話すことができるカフェがあってよかった」

「お菓子や飲み物もあって、参加者とゆっくり交流することができた」

「このように地域と大学が連携することが大切、人と人とのつながりを大事にしていきたい」

など⇒カフェが憩い・交流の場となり、楽しんでいただけたようであった。

## (3) 企画や広報について

「これからもこのような企画をぜひやってほしい、たくさんの人に広めてほしい」

「かほく市の回覧板でお知らせいただきたい、次回もぜひ参加したい」など

⇒かほく市の公報や回覧板でのチラシ回覧が参加のきっかけとなっているようであった。

また、大学と地域との連携を心強く感じてくださっている声も多く、開かれた大学としてこれからの活躍や役割を期待されているようであった。

## 4. 評価と今後の課題

### (1) 評価

- ・本企画の初年度である令和5年度に比べ、令和6年度は、参加者が飛躍的に増加した。アンケート結果より、本イベントを知ったきっかけは、かほく市公報69名、回覧板63名であり、回答者の90%がかほく市を通じた公報によって参加していた。

⇒かほく市の公報への掲載、チラシの回覧が、本イベントを周知するのに、大きな効果をもたらしていた。

- ・アンケートの回収率が86.9%と高かった。

- ・選定した映画の内容が良かったため、感動した、学ぶきっかけとなったとの声が多く聞かれた。

- ・アルコール依存症、認知症というテーマが身近であり、自分のこととして考えることができたようであった。

- ・カフェでは、仲間同士で楽しく歓談している様子があり、また教員との交流や大学を身近に感じてもらえる機会となっていた。

### 【反省点】

- ・講堂の音響が聞こえづらい、音が割れるなどの声があった。

- ・カフェは想定以上の参加者があり、急遽場所を変更した。受付が混雑し、列になっていた。席がギリギリだった。お茶やお菓子が足らなかった。

### (2) 今後の課題

- ・次年度は、参加者の意見やニーズを反映させ、さらに発展させた形で運営していく。特に、災害関連に関する情報提供や本学の災害支援に関する取り組みについて紹介し、地域住民との共助活動について示唆をえる機会としたいと考える。

- ・次年度も参加者の年齢層や住民の興味にあった映画を選定する必要がある。

- ・かほく市には、今年度同様、公報の方面でご協力いただく。

- ・カフェのニーズが高かったため、次年度は受け入れ人数を増やした計画を立てる。



## 1-2-5 宝達志水町における祭礼行事のアーカイブ作成

企画担当：松田 幸久 / 心理学 准教授

### 1. 事業の目的

宝達志水町南部を中心として祭礼行事のデジタルアーカイブを作成する。アーカイブ時には写真撮影や動画撮影を行い、電子媒体として記録と保存を行う。これは単に祭礼や練習の風景を見栄え良く撮影するという程度にとどまらず、使われている固有名詞や所作についての完全な記録を作成することを最終目的とする。

### 2. 実施状況

これまで同様、NPO 法人宝達スポーツ文化コミッション（代表者：村井仁志理事長）の越野貴成事務局長（以下、単に事務局長）と協働し、宝達志水町南部河原区を対象としてアーカイブ化を行なっている。当該年度での活動状況は以下のとおり。

#### (1) 現地での活動

7月：NPO 法人と打ち合わせし、事業締結の書面を交わす。松田と越野事務局長の2名。

8月：宝達志水町河原区の祭礼用具の写真撮影。松田、市丸准教授、地区の有志4名。同区において祭礼の動画撮影。松田、青年団約40名、地域住民多数。

10月：NPO 法人が同区の青年団に宝達志水町花火大会での獅子舞を依頼。その撮影。松田、青年団21名、当該地区住民2名より祭礼行事で使われる名称などの聞き取り（2回）

1月：祭礼催行の代表者に今年度の記録をお渡し（1回）

#### (2) ホームページを通じた成果報告

本学のホームページを通して以下のような成果報告を行なっている。

4月：<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/26246>

<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/27682>

8月：<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/27687>

10月：<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/27748>

#### (3) 石川県立看護雑誌を通じた成果報告

令和7年度発刊の石川県立看護雑誌にて、「宝達志水町における祭礼行事のアーカイブ作成活動」と題した資料論文を発表予定。

### 3. 実施内容

実施内容については上記の通り。

祭礼当日や練習日に撮影を実施し、獅子舞に関するおおよその記録を終えた。令和6年度では、祭礼で使用する道具類の撮影も行なった。獅子頭や天狗の面といった道具の撮影を行なった。また、令和6年度で撮影した動画や写真の整理を終えている。令和6年度の情報共有用タブレットに更新した。

### 4. 評価と今後の課題

これまでの活動を概観すると、スタートアップの関係構築から始まり、主たる作業の多くを占める獅子舞の撮影を終えている。そのため適切な進捗を行なっていると評価できる。

また、令和6年度の活動において、地域の小学生から「今年もカメラで撮りにきた」と言われる程度に本活動が地域に浸透している。長期的に考えると石川県立看護大学を広報していることに相当するため、価値のある活動へと発展していると考えられる。

令和7年度では、1) 祭礼で使用する道具類の撮影とアーカイブ化、2) これまで記録していない活動の洗い出しと記録、3) これまでの成果を元にした発表会開催、4) 地区の被災状況の確認を行う。

## 5. 活動風景



左：道具の撮影風景、右：撮影された道具



左：神輿側面の螺鈿と彫刻、右：神輿の金細工



左：お祭り当日の風景、右：天狗の衣装と面の付け方の記録

## 1-2-6 避難所指定施設における健康保持のための温度変化の計測と啓発活動

企画担当：松田 幸久 / 心理学 准教授

### 1. 事業の目的

令和6年1月に発生した能登半島地震によって多くの住民が避難所での避難生活を余儀なくされた。避難所として指定された施設の多くは寒暖差が激しく、避難者の健康を害すると考えられた。本事業は避難所生活における健康保持を目的として、避難所の温度変化の計測と啓発活動を行うものである。

### 2. 実施状況

#### (1) 現地での実施状況

活動時期、内容、回数は以下の通り。

5月：調査対象施設の下見と評価。

6月：下見後ミーティング、問題の洗い出し、活動の概要の決定。宝達志水町の調査対象施設1（アステラス）と調査対象施設2（さくらドーム）で温湿度計設置と回収。ポストミーティング。

8月：施設1と2で温湿度計の設置と回収。ポストミーティング。

10月：大学にて、上半期の活動の振り返りと活動の分析、下半期の活動の予定策定。

大学にて、温湿度計設置のための機材の改良と準備。

施設1と2で温湿度計設置と回収。

11月：かほく市地域公開講座にて、市民向けにこれまでの活動を踏まえた発表実施。タイトルは「温度・湿度からみる家の特徴を知ろう！」。地域からの参加者は11名。

12月：宝達志水町河原区総会にて啓発活動。地域からの参加者は40名程度。

3月：仮設住宅にて温湿度計設置と回収。調査対象施設管理者との会議。

#### (2) ホームページを通じた成果報告

本学のホームページを通して以下のような成果報告を行なっている。

5月：<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/27753>

11月：<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/27752>

<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/27856>

<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/archives/27927>

#### (3) 石川県立看護雑誌を通じた成果報告

令和7年度発刊の石川県立看護雑誌にて、「災害時の避難所施設における温湿度計測の展開－計測時の道具の開発を中心として－」と題した資料論文を発表予定。

### 3. 実施内容

実施内容については上記の通り。

本年度での成果は1) 宝達志水町健康福祉課と生涯学習課との関係構築、2) アステラスとさくらドーム21での温湿度計測の実施と情報共有、3) 市民向け講座での啓発活動の実施、4) 地域住民からの依頼による対象地域の拡張、であった。

#### 4. 評価と今後の課題

本年度は正式な活動の初年度であったことを鑑みると、スタートアップとして必要な活動を網羅したと考えている。さらには4)の地域住民から依頼があり、新たに公民館を1つ計測対象地域として加えることとなった。また、当該地域の住民に対して災害に関する啓発活動を実施することが予定されており、大きな発展があったと言える。

本活動では松田研究室のゼミ生3名と、HHCのゼミ生4名が参加している。学生が継続的に関わっていることから、本活動は学内における防災意識の啓発にも寄与したといえる。

今後の課題として次の2点が考えられる。第1に、センサー数の拡充である。本年度ではセンサー数が足りず、挙動が正常ではないセンサーも使用しているのが現状である。また、本活動を知った地域住民から活動対象として欲しい旨の要請があり、来年度はさらにセンサー数の増加が必要である。

第2に、本活動への参加者人数の増加である。本年度は大学外の方、約50名分の参加があった。今後、HHCのゼミ活動を活用し、地域とのつながりを深め、さらなる地域住民の参加をはたらきかけていく予定である。

#### 5. 活動風景



左上から4枚：センサーの組み立てと設置の風景。左下：かほく市地域公開講座の様子。右下：宝達志水町河原区総会での啓発活動の様子。

## 1-2-7 災害につよい街づくり事業

企画担当：寺井 梨恵子 / 基礎看護学 准教授

### 1. 事業の目的

石川県内の社会福祉協議会や関係団体と連携し、高齢化の進む被災地の新しい絆づくり（サロン活動）に学生ボランティアと一緒に取り組むとともに、防災意識の向上を目指して活動を実施する。

### 2. 実施状況

実施内容としては、健康相談、血圧測定、傾聴ボランティア、健康体操等のサロン活動や炊き出しや研修会を開催した。事業は計7回開催し、延べ72人の参加者であった。

回	年月日	内容	参加者
第1回	R6. 4. 21	珠洲市宝立地区の復興桜まつり 場所：宝立小中学校 内容：血圧測定、傾聴ボランティア 主催：珠洲市宝立町住民有志	計12名 1-4年生 11名 教員1名
第2回	R6. 6. 13	炊き出し訓練 内容：復興期を想定した栄養価の高い幅広い世代に沿った炊き出し計画を立案実施する。 場所：石川県立看護大学	計13名 1-3年生 10名 教員3名
第3回	R6. 6. 16	炊き出しボランティア 場所：穴水町由比ヶ丘団地 内容：6月13日に実施した炊き出し計画に基づき200食を調理・配布する。 主催：「ジオこども食堂」（代表：田中俊彦） 共催：明治安田生命、石川県社会福祉協議会	大学からの参加 計19名 1-3年生 14名 教員3名 一般参加者2名
第4回	R6. 7. 18	風水害24 内容：大規模風水害接近から通過までの24時間をリアルにシミュレーションする。 場所：石川県立看護大学 ファシリテーター：寺井梨恵子	1-3年生 7名
第5回	R6. 11. 23	健康カフェ（サロン活動） 場所：能登町まつなみ第1団地集会所 内容：血圧測定、健康相談、健康体操、クラフト（クリスマス）、茶話会 参加者：住民9名 共催：能登町健康福祉課、能登町社会福祉協議会、公益社団法人成年海外協力協会	計8名 1、3年生 5名 教員1名 学外参加者2名 （大学生、大学教員）
第6回	R7. 1. 25	健康カフェ（サロン活動） 場所：能登町まつなみ第1団地集会所 内容：血圧測定、健康相談、健康体操、クラフト（バレンタイン、節分）、茶話会 参加者：住民12名 共催：能登町健康福祉課、能登町社会福祉協議会、公益社団法人成年海外協力協会	計7名 1、3年生 4名 教員1名 学外参加者2名 （大学生、大学教員）

### 3. 実施内容

上記 6 回の実施報告は大学ホームページにて行った。関係団体との連携調整によって実現したサロン活動について下記に記載する。

#### (1) 内容

令和 6 年能登半島地震では広域避難等の影響や少子高齢化、人口流出により、応急仮設住宅でのコミュニティの再構築に懸念がある。おおよそ地区ごとに応急仮設住宅が建設されているが、新たな地域コミュニティを形成することを余儀なくされている。この時期は、地域の自治組織・医療施設などの関連機関・ボランティアなどが連携しながら地域との関わりを深める時期といわれており、巡回訪問を行い、生活状況を観察し、被災者を孤立させないことが大切である。特に応急仮設住宅では、新たなコミュニティによる社会参加が減少することで生活不活発となり、高齢者の災害関連死につながる生活習慣病や慢性疾患の増悪をもたらすといわれている。従来、大規模災害発生後は、新たなコミュニティづくりの支援としてサロン活動（地域住民が気軽に集える場所をつくることを通じて、「仲間づくり」や「健康づくり」をするための活動）や見守り巡回訪問が行われてきた。能登町では、仮設住宅でのサロン活動や見守り活動を能登町健康福祉課と公益社団法人青年海外協力協会（JOCA/JICA）が調整しており、令和 6 年 8 月 27 日に両者と調整会議を行い、同年 9 月から隔月でサロン活動を開催することとなった。

#### (2) 参加者ボランティア学生の感想

寒い中でも徒歩で来られる方が多く、活動を楽しみにしてくださっていた。参加者の方々はクリスマスクラフト作りなどの活動を通して笑顔になられており、若い人と話すとう元気になると話される方が多く、活動を行うことで少し役に立てたように感じた。定期的にサロンに参加したいと思う。

これまでかほく市のほっこりカフェなどに当日のボランティアとして参加することはあったが、準備や企画から携わり、また、行く日が初回のサロン活動は初めてであったため、どのような方が参加されるのか、どのような場所で行うのかなど、分からないことが多い状態で、不安や緊張があったが、参加者の方がみなさんとたくさんコミュニケーションをとったり、工作で一緒に手を動かすことができたりして、とても楽しかったし、仮設住宅で定期的に行うサロン活動の重要性を改めて感じた。

### 4. 評価と今後の課題

事業目的である、石川県内の社会福祉協議会や関係団体と連携し、高齢化の進む被災地の新しい絆づくり(サロン活動)を企画し、学生ボランティアと一緒に取り組むことができた。今後は、継続的な学生ボランティアを確保し、学びの変化を評価していく。



## 1-2-8 令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援

企画担当：米澤 洋美 / 地域看護学 教授

### 1. 事業の目的

令和6年能登半島地震発災に際し、看護・保健の視点から関連専門職と看護大学の学生が組織的に支援を展開し定期的な健康観察やレクリエーション等を行い、避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされる被災者の方々が生活不活発病や災害関連死を防ぐことを目的とした。

入居者同士の顔合わせ、情報交換の場とするとともに、体力測定、熱中症予防、食中毒予防や交流の場を生み出すことを事業の目標とした。

### 2. 実施状況

能登半島豪雨災害により、9月に予定していた珠洲市2事業が中止となり、3月に新たに能登町にて2事業を追加した結果、コンサルテーションも含め12回の行事や調整を行った。

- (1) 米澤洋美、桜井志保美：珠洲市正院小学校避難所および仮設住宅訪問、健康チェックおよび足浴、ハンドマッサージほか学生2名引率 2024.03.12
- (2) 米澤洋美、桜井志保美：珠洲市宝立小学校避難所および仮設住宅家庭訪問 2024.04.12
- (3) 米澤洋美、塚田久恵、瀬戸清華：珠洲市こころの復興マルシェ、珠洲市正院小学校仮設住宅、学生13名引率、会場誘導、健康観察（血圧測定）足浴ほか 2024.05.26.
- (4) 桜井志保美：珠洲市保健センター三上課長、酒井明子先生、珠洲市避難者把握在宅家庭訪問調査打合せ 2024.07.30
- (5) 米澤洋美、塚田久恵、桜井志保美、瀬戸清華、山路朋子、牛村春奈：珠洲市避難者把握在宅家庭訪問調査参加 2024.08.19, 08.22.
- (6) 米澤洋美、嶋雅奈恵：珠洲市第2回こころの復興マルシェ出展学生説明会、学生6名 2024,09.20.
- (7) 米澤洋美、嶋雅奈恵：珠洲市第2回こころの復興マルシェ出展、ストレスチェック体験、マッサージ、会場誘導ほか 2024,09.23（9月能登半島豪雨災害のため中止）
- (8) 桜井志保美、山路朋子、牛村春奈：サロン活動の学生説明会、学生5名、2025,02,27
- (9) 桜井志保美、サロン活動の打ち合わせ・会場下見 2025.03.07
- (10) 桜井志保美、山路朋子、牛村春奈、幅大二郎：サロン活動、小木公民館、eスポーツ体験、手工芸、ラボット交流会、学生5名、参加者15名 2025.03.07
- (11) 米澤洋美、嶋雅奈恵：リラックス体験会、学生説明会、学生6名 2025.02.20.
- (12) 米澤洋美、嶋雅奈恵：リラックス体験会、能登町三波公民館、ストレスチェック体験、マッサージ、ラボット交流会、学生6名、参加者21名 2025.03.11

### 3. 実施内容

#### (1) 学生・教員による避難所等での催しや健康チェック（(1)(2)(3)(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)）

珠洲市、能登町において避難所、仮設住宅集会所、仮設住宅、在宅訪問と、発災3か月後から15か月後までの期間を、フェーズに応じて被災地に赴き被災住民への支援を行った。学生の引率に向けた調整をおこなった。

手工芸、eスポーツ、ストレスチェック、マッサージ体験、ラボット交流体験等を学生とともに実施した。令和6年能登半島地震にて被災した能登の学生からも参加があり学生にとっても看護学生として被災住民と交流する機会となり、多世代交流の場になった。また、ラボット参加による住民との交流は、抱えたり、なでたりするふれあいの機会となり癒しの時間となった

と考える。

#### (2) 教員による在宅避難高齢者の家庭訪問による実態把握 (4) (5)

避難所や仮設住宅、県外移転の手続きのない、在宅避難住民の実態調査が珠洲市保健センター主催で行われ、NPO 法人、災害看護学会等と一緒に実施した。自宅に居住していることになっている世帯に対して、住宅地図を用いて一軒、一軒訪問して安否を確認した。

#### 4. 評価と今後の課題

発災まもない令和6年3月から、翌年3月までの期間、珠洲市、能登町にて住民支援を行った。令和6年9月には能登半島豪雨災害が発生し、準備していた2事業が中止になるなど、計画の変更を余儀なくされる事態にも遭遇した。被災地までの道路状況が悪い中、学生を安全に現地に引率し、被災地での住民支援という経験を企画実施することができた。数か月先のことが予見できない時期にあつて、被災地の状況に合わせ、市町担当職員、関係者と連携しながら、その時々々のフェーズにあつた事業を臨機応変に企画し実施できたと考える。

また、看護専門職として、本学教員が在宅訪問調査に応援できたことは、在宅被災世帯の実情を把握し、被災地域の健康課題を把握する機会として大変有意義であつたとともに、微力ではあるが、被災地域の県民の健康支援に貢献できたのではないかと考える。

課題としては、発災直後という時期は脱した中、どのような被災地の地域貢献が望まれるのかを踏まえ、多くのボランティアやNPOが参画する中での看護大学としてふさわしい被災住民に対する地域ケア総合センター事業の支援について再度検討する必要があると考える。

#### 主な活動の様子

【2024.03.02 珠洲市正院小学校1次  
避難所ならびに仮設住宅集会所：ハ  
ンドマッサージ】



【2024.05.28 珠洲市こころの復興マルシェ:健  
康チェック】



【2025.03.07 能登町小木公民館  
サロン:手工芸の様子】



【2025.03.11 能登町三波公民館  
サロン:ラボットと記念撮影】





## 2 そ の 他



## 2-1 かほく市との包括的連携協定に関わる取り組み

企画担当：塚田 久恵 /地域ケア総合センター センター長（教授）

### 1. 事業の目的

本学は、平成 22 年 10 月にかほく市との間で締結した包括的連携協定に基づき、さまざまな事業に取り組んでいる。この協定は、かほく市の健康推進をはじめとした豊かな地域づくりに向けて本学が支援・協力を行うとともに、本学の教育・研究活動が充実するようかほく市に支援いただく、いわば双方向の協力を企図して締結されたものである。

### 2. 実施状況及び内容

今年度は本学が幹事となり、2 回の協議会を開催した。

5 月 31 日（金）第 1 回協議会：令和 5 年度の事業実績報告および令和 6 年度事業計画案

12 月 20 日（金）第 2 回協議会：令和 6 年度事業の進捗状況報告および令和 7 年度の事業計画案

今年度、かほく市からは 14 の事業が、本学からは 3 つの事業が提案され、計画どおりに事業を実施することができた（表 1）。また、かほく市健康推進課との共同事業として「かほく市内の働き盛り世代の健康を増進する実践的アプローチ」や長寿介護課との「地域在住高齢者の e スポーツ体験の効果検証」など事業評価を発展させた取り組みを行った。

表 1 令和 6 年度「かほく市と石川県立看護大学の包括的連携」事業

	主催	事業(市担当課)	看護大担当
1	かほく市	かほく市ケーブルテレビ事業（情報推進課）	平居教授、垣花教授、大江講師
2		健康ブランド化事業（健康福祉課）	垣花教授
3		発達障害に関する相談事業（健康福祉課）	大江講師
4		いきいきシニア活動推進事業（長寿介護課）	松本勝教授他（地域公開講座）
5		地域支援事業（長寿介護課）	米澤教授（会議への参加） 総務課担当（シンポジウム後援依頼）
6		通いの場における介護予防事業（長寿介護課）	—
7		家族介護者教室（長寿介護課）	—
8		e スポーツ体験会（長寿介護課）	塚田教授他
9		かほく市民体力テスト（スポーツ文化課）	—
10		ウォーキング事業（スポーツ文化課）	—
11		問題を抱える子ども等の自立支援事業(学校教育課)	武山名誉教授
12		教育相談事業（学校教育課）	武山名誉教授
13		妊娠期から切れ目のない育児支援事業（こども家庭課）	米田教授他
14		石川県立看護大学救急ボランティア（消防署）	大西講師
15	看護大	高齢者と看護学生との交流事業（地域看護学講座）	米澤教授
16		こころのシネマ学園台（精神看護学講座）	美濃教授他
17		ヒューマンヘルスケア防災士取得コース （石川県立看護大学教務委員会）	美濃教授他

「いきいきシニア活動推進事業」の一環として、「地域公開講座」は七塚健康福祉センターの多目的ホールで計 6 回開催され、学生のボランティア活動も促進された。参加者は総計 170 名

にのぼった（表2）。

また、「生涯現役フォーラム」は同会場で10月30日に開催され、寺井梨恵子准教授による「風水害24を使ったシュミレーションゲーム」をテーマとした講演が行われた。参加者は19名だった。

これらの講座とフォーラムは、シニア世代の方々の生活を豊かにすることを目的として実施された。

表2 地域公開講座

回	月 日	テーマ	講師名	参加者数
1	6月13日	まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金！！ ～筋肉を増やす食事のコツ～	共同研究講座准教授 長谷川陽子	91
2	6月14日	まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金！！ ～筋肉を増やす食事のコツ～ 筋肉や脂肪量、骨密度測定会、看護大生も両日参加		
3	7月11日	まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金！！ ～筋肉を増やす運動のコツ～	共同研究講座講師 幅 大二郎	33
4	8月2日	今から始めるむくみケア「美しい肌」を育てる！	成人看護学教授 臺 美佐子	14
5	9月25日	「スモールチェンジ」健康づくり	健康体力科学教授 垣花 渉	21
6	11月19日	温度・湿度からみる家の特徴を知ろう！	心理学准教授 松田 幸久	11
合 計 (人)				170

### 3. 評価と今後の課題

令和6年度には、すべての事業を対面形式で実施し、多くの方々にご参加いただいた。今後も、地域の皆様がより健康的な生活を送れるよう、本学の知見や専門性を活かした新たな事業を検討する予定である。

今年度は特に、かほく市健康推進課との共同事業「かほく市内の働き盛り世代の健康を増進する実践的アプローチ」に取り組んだ。また、かほく市長寿介護課からの委託を受け、eスポーツ体験会を通じて研究フィールドを広げる新たな試みも行った。これらの取り組みは、新たな研究のきっかけを創出するだけでなく、地域社会との連携を深め、高齢者の生活の質向上にも寄与すると考えている。

今後も、かほく市の生涯学習課、健康福祉課、長寿介護課など各部署と協力しながら、事業のさらなる強化を図りたい。そして、地域の健康課題の解決を目指した研究を推進し、地域の皆様がより豊かな生活を実現できるよう努力を継続する方針である。

石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

## 事業報告書（第22巻）

令和7年10月発行

発行：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

〒929-1210

石川県かほく市学園台1丁目1番地

Tel.076-281-8301 Fax.076-281-8319

© 2015 Ishikawa Prefectural Nursing University.  
All rights reserved.

著作権は石川県公立大学法人に帰属する。





